



海外

稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

デュッセルドルフ稲門会について



2018年、毎年恒例のソフトボール早慶戦で慶應に勝利！

現在の会員数は120人を数えます。新年会をはじめに、ソフトボール早慶戦、バーベキュー大会、ゴルフ早慶戦などを主な行事として活動しています。コロナ禍では集合しての活動はできませんが、そんな中でも若手を中心に定期的にオンライン飲み会を開催しています。デュッセルドルフにお越しの際はぜひご連絡ください。

栗原佑輔(2010年国際教養)

デュッセルドルフの魅力

デュッセルドルフには600社以上の日本企業の拠点があり、人口60万人ほどの都市に約7,000人の日本人が暮らしています。リトル東京のインマーマン通り周辺は日本企業や日本の店がひしめき、平日のランチタイムは新橋のような光景で、土曜ともなれば欧州各地から日本ファンが訪れます。近年は、アニメやマンガのキャラクターのお菓子やお弁当が大人気です。ドイツで人口最多の州、ノルトライン・ヴェストファーレンの州都でもある経済都市で、全国で愛されるマスタードのメーカーや、日本でヘアケア製品を展開するシュワルツコフ・ヘンケルの本社もあります。

見どころは旧市街です。石畳の上をそぞろ歩いて、「ヨーロッパで一番長いカウンター」へ。ビール大国のドイツは街によってビールの種類が異なります。デュッセルドルフでは、茶褐色のアルトビールを200ミリリットルの小さなグラスでお代わりしながら、立ち飲みするのが定番。ウエーターは、注ぎたてのビールが入ったグラスでいっぱいのお皿を片手に客の間を歩き交い、空になったグラスと交換していきます。

もう一つの特色はカーニバル。知名度ではリオやベネチアに及びませんが、デュッセルドルフのカーニバルは春夏秋冬の次の5番目の季節と称され、誰もが仮装して祝います。昔ながらのピエロや中世風の衣装のほか、現代のアニメ

やゲームのキャラクターの扮装も増え、パレードの山車も時事ネタや政治風刺が主流で、季節だけでなく時勢の流れも感じられます。

伝統と経済発展、そして欧州の中の日本。デュッセルドルフはこれからも唯一無二であり続けることでしょう。

猪又尚子(1993年文学)



(上)ライン川とデュッセルドルフの街並み
(下)山車が市内を走るカーニバルの様子

会長メッセージ

コロナ禍の中、長年にわたり当会の新年会でお世話になっていた日本食レストランが2020年5月末に店を閉じました。われわれのみならず、デュッセルドルフ以外に住む日本人にも40年以上親しまれた当地の伝説的なお店でした。このお店で毎年1月の最終土曜日の夕刻から新年会が開催され、この地で暮らす仲間と新たに当地に赴任してきた仲間とのうれしい出会いがあり、3時間余りのうたげの最後に、みんなで『早稲田の栄光』『紺碧の空』『早稲田大学校歌』の3部作を歌うとき、いつも「ワセダで良かった！」という思いになります。

早稲田大学とデュッセルドルフの細い糸から生まれた集まりですが、昨年51回目の新年会を

経て、これまでに1,500人を超える校友の参加がありました。デュッセルドルフに滞在する日本人およびその家族のほとんどが駐在員ということで、仕事が第一なのは言うまでもありませんが、仕事を離れば稲門会の存在は非常にありがたい存在です。早稲田で学んだ、早稲田で遊んだというだけで、初対面の人にも親しみが湧いてきます。特に海外での校友との親しい交わりは格別のものがあります。

これからも進取の精神を糧にして「デュッセルドルフ稲門会が心のふるさと」であり続けられるよう心から願っています。

藤田博史(1974年社会学)

会員からのメッセージ

日系企業が多いただけあり、会員数は多く、稲門の肩書で普段日本では出会うことができないさまざまな企業、世代の方と交流できます。赴任から7年たちましたが、日本があまり恋しくならないのは、駐在の憩いの場として非常に大きな存在である稲門会のおかげです。

百田祥吾(2010年国際教養)

ドキドキしたのは初参加の日の最初だけ。当会の温かく楽しい雰囲気のおかげですぐになじみました。駐在員の会員も多いので人の入れ替わりも多いですが、その分いつも新しい出会いがありますし、稲門会がきっかけでどんどん交友の幅が広がり、とてもありがたく感じています。

穂保隼人(2012年商学)

稲門会での集まりはいつも居心地がよく、和気あいあいと楽しく過ごしています。

また、さまざまな年次の方と交流する中で得るものはとても多く、その縁に感謝しています。日本から離れたところでも校友と一緒できる機会は刺激的であり、同時に心安らぐ場所ともなっていて、早稲田のつながりの広さと深さを感じています。

亀山翔平(2012年商学)

デュッセルドルフでは、さながら馬場にいるかのように稲門会の皆さまと飲むことができ、アラサー後半戦にもかかわらず、まるでワセジョに戻ったかのような錯覚を覚えています。ロックダウン明けにまた以前のように飲みに行ける日を心待ちにしています！

遠藤桃子(2014年法学)

当地に赴任し、知り合いもおらず不安だったときに稲門会に参加しました。ここでは世代も職種も異なる方々が、大学が同じという共通点で集まり、笑い合っていてとても安心したのを覚えています。どんな場所においても、稲門会の皆さんに会うと、あのころの高田馬場に戻れるような、そんな気持ちにさせてくれるすてきな会です！

鵜澤花子(2016年政経)



2020年6月、ロックダウン解除後に幹事メンバーで集会